

① Aさん（中学部3年生）

数少ないサインと指さし、発声での表出が主であるAさんは、成長とともに伝えたいことが増えているが、表出手段やその語彙が少なく、自傷・他傷を減らすことが困難だった。以前からVOCAの使用は検討していたが、物を投げたり分解したりすることが多かったため、見送られてきた。中学部に入り、サイン表出が少し増え、落ち着いて活動できることも増えたため、VOCAの導入に踏み切った（図16）。



図16 Aさん：導入時

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「B-292 特別支援学校（肢体不自由）のAT・ICT活用の促進に関する研究—小・中学校等への支援を目指して—」（平成26年3月）、64に記載された内容である。